

<ご観覧の皆さまへ・メッセージ>

ウィキペディアによると、「祭祀・祭（まつり）とは、感謝や祈り、慰霊のために神仏および祖先をまつる行為（儀式）である。供物そのほか捧げられる」とあります。

祭祀の延長上に、綱ひき、ハーリー、歌・さんしん・舞・踊、空手、棒術、演劇といった諸行事も奉納されるのだと考えられます。祭祀行事は日本は勿論のこと、世界中で行われていますが、我が沖縄においてもその歴史は古く、500年いや1000年という人もいます。

沖縄における祭祀・神事には、ウンジャミ、シヌグ、結願祭、豊年祭、海神祭、旧正月関連行事、旧暦七月お盆関連行事、旧三月三日浜うり行事、十五夜祭り、清明祭、ハーリー行事、綱ひき行事、獅子舞等々あげれば枚挙にいとまがありません。

これらは、「神へのウニゲー（願い）」や、「ニフェデービタン（感謝）」が主体となっていると思われます。

私には、父方・祖父の妹で「ハンシーグラー」と呼ばれる小祖母がいて、大家（ウフヤー）の拝み事、神事を一手に引き受けていました。ユタではないが、さびのある声でうがする口上には威厳があり、聞き惚れていたものです。小祖母が亡くなって、その祈りが見られなく、聞かれなくなり淋しい思いがありました。昭和53年に久高島のイザイホーがありましたが、その後イザイホーも途絶えてしまいました。それを機に、自分の中に「沖縄の祭祀」への関心が高まっていきました。

気がついたら、多くの祭祀・神事が廃れていく様が見えてきました。わが故郷伊江島で行われていた「伊江島のウブウイミ（大折目）」も今はもう撮れません。

うちなーのアマチュアカメラマンとして、「沖縄の祭祀・神事」が撮れなくなることは、全くさびしいことです。「ここで自分も頑張らなくちゃー」と祭祀撮影に駆き立てられていったのでした。

本写真展にはおよそ10年間で撮った「沖縄島々の祭祀写真」を展示しました。この間に撮った祭祀写真を展示会用にまとめてみたら、場所的に言えば31カ所、300点程セレクトできました。その中から取捨して、一カ所5点で、全150点程度の展示を考えました。ですが、範囲が広すぎるので、「テーマを絞って、後々にも続けられるようにしたらどうか？」との先輩写真家からのアドバイスがありました。

その結果《渡久地政修写真展 沖縄島々の祭祀・ウチナーうがみの原風景がここにある》としました。祭祀行事はモノクロ写真がよく似合う、と思います。展示枚数は島々9カ所からおよそ110余点です。今後とも沖縄から祭祀行事が途絶えることがないようにとの、願いを込めています。

また、沖縄の祭祀・神事は沖縄文化の重要な側面であることもご理解いただきたいと考えます。皆様、じっくりとご覧いただきたくお願い致します。感想などもお聞かせ頂けたら有難いです。

渡久地 政修